

# ともに生きる

## ハートネットTV “書けない”ボクと母が歩んだ道 ～学習障害と共に～

放送日：2021年11月17日 放送時間：30分

### この番組の良さ



#### ● 学習障害の実態を知る

書く、読む、聞く、話す、計算することなどに対して著しい困難を示す障害を、学習障害といいます。文部科学省の調査では、通常の学級に在籍する児童生徒の4.5%が知的な遅れはないものの、学習面で著しい困難を示すという結果が出ています。

番組では、菊田さんのこれまでの生い立ちを振り返る中で、学習障害のある人がどんなことで困っているのか、どんな支援が必要なのかについて知ることができます。

#### ● 当事者・家族の語りを持つ

「発達障害」はメディアで特集が組まれるなど、社会的に共有されている言葉になりつつあります。「学習障害」についても多くの人が耳にしたことがあるのではないでしょうか。当事者や家族がどんな気持ちで、どんな人生を送っているのか知ることは、共生社会を作るためにとても大切です。

番組では、当事者とその家族の語りによって、学習障害と共に歩んだ日々とその時々感情に触れることができます。



執筆者  
京都教育大学  
総合教育臨床センター  
専任講師 **鈴木英太**



対象校種 小学校高学年 中学校 高校 教職員研修

対象教科 学級活動 道徳

### 番組活用のポイント

#### ● 特性を理解することの大切さ

番組放映時点、大学に進学して講義を受ける日々を送っている菊田さんは、ノートをとらずに耳で聞いた講義内容をその場で覚える学習スタイルを選択しています。私たちも、一人一人が視覚や聴覚に優位性を持っています。例えば、単語を1つ覚えるときに、声に出して覚えた方が記憶に残る人もいれば、書いて覚えた方が定着する人もおり、その程度は人によって異なります。特性のスペクトラム(連続性)について深める発問をすることで、番組の内容を「菊田さんのこと」ではなく、「自分ごと」として捉えることにつながります。その際には、教室の中に学習障害のある児童生徒が含まれていることを十分に留意しておきましょう。

また、学習障害について周囲の理解が得られない中、菊田さんは「自分は勉強ができない」と責めるようになっていました。しかしその後、母親と学校の先生の理解によって菊田さんは自己肯定感を取り戻し、効果的な学習支援を受ける中で力を伸ばしていきました。番組について話し合う中で、周囲の人が個人の特性を理解し、支援することが、1人の人間の人を変えたという事実にとどまることができる。

#### ● 家族の気持ちの変化と共生社会の在り方について考える

当初、菊田さんの母親は息子の異変を感じて、必死に文字を書くことを迫ります。菊田さんは一時、母親を含めた周囲に対して心を閉ざしてしまいます。一方、現在の菊田さんは母親のことを自分の大切な理解者であると感じているようです。菊田さんと母親の気持ちの変化に着目する中で、悪気なく持ってしまう先入観や思い込みについて考えることができます。

学習障害に限らず、私たち一人一人は様々な特性を持ち合わせており、多様性に溢れています。番組を視聴することで、家族として、友達として、共に支え合う人間として、多様性を認め合うことの重要性や、共生社会を作るために必要な意識や行動について議論を深めることができます。